



彗星日記

My Comet Diary

彗星日記

竹内秀雄



シドニー港



シドニーの大橋梁と著者



クーナバラプラン天文台で観測したハレー彗星
(1986年3月16日)



オーストラリア国立大学天文台の外で著者と次女多恵子
(1986年4月1日)



観測地よりシドニーに戻るバス内で著者と天文台員

ハレー彗星 観望証明書
CERTIFICATE

This is to certify that

Hideo Takeuchi 殿

saw second Comet Halley at
the NEC Halley's Comet
Observation Center
in Coonabarabran.

Date: 31. 3. 1986 Time: 2:30

Tail: 5° Magnitude: 2.5

NECハレー彗星観測村村長

佐藤 寿治
Hisaharu Sato

ハレー彗星を生涯で二度見た観測証明書

まえがき

「醉生夢死よ、さようなら」

米寿を迎えたとき、老生は標記の如きモットーを披露した。これは、飽くまでも、自分を鞭撻せんがためであったが、それには、これまでの生き方を反省し、拙著で述べた「思い出の記」を再吟味する必要のあることを悟った。

第一に、自己の運命を左右したものは何？ また、この自分を育んでくれた人々、そして、私共の国家とその歴史について、どれだけの知識を有しているかを反省しなくてはならない。

近頃話題を投げたわが国史の文部省検定に関して、外国から苦情が出て、その内容の書き換えを迫られたことは正に国辱で、己の無知をさらけ出したものである。

老生は、右の恥辱に、遅蒔きながら国史の勉強をやり直さなければと思った。

昔、小学生時代に、国語の時間に「吉野山」という題で、各務支考の「歌書よりかがみしこう

も軍書に悲し吉野山」という句を前書として、吉野山の叙景から南北朝の紛争、楠公父子の忠節を記した文章を読んで、何とも云えぬ悲しみを覚えたことが、いまだに忘れられない。

こうした人の世の運命きざめは、空の星と関係があるように信じて流行したギリシアや中国の占星術アストロラー (Astrology) からだんだん進歩して、天文学アストロノミー (Astronomy) になった。科学的に進歩した現代においても、未だに迷信から抜けきれず、「髪の毛の長い空飛ぶ魔女」の異名のあるハレー彗星を恐れている。

自分は、生涯に二度このハレー彗星を観ることが出来た。七十六年を周期とするこの彗星に再会出来たのは正に上よりの御恵みである。第一回は、明治四十三年四月二十日、神中(横浜一中)の二年生、当年十四歳のときであった。再会したのは昭和六十一年の三月三十一日、濠洲シドニーの西北、クーナバラプランにおいてである。老生は満九十歳。

一昨年、米寿を迎えたとき、老生は、年賀状に、「醉生夢死よ、さようなら、ハレー彗星を、また観る日まで」と書いて、一念発起、上よりの御恵みを頂き、この

上、長寿を賜ふことの出来る限りは、先ず、歴史の勉強をやり直して、自分が、生涯に再会出来たハレー彗星の不思議な光に照らして、国史並に世界史の上に空想を巡らせてみたいと思う。

天かける自由の羽翼は

わが生命

秀雄

一九八六年十月廿六日

目次

- 一、私の彗星日記 9
- 二、戦争と平和 14
- 三、ハレー彗星と吉凶 23
- 四、彗星綺談 32
- (イ) 拙著『煙洲先生と横浜』出版記念と老生の米寿祝賀式 32
- (ロ) 日本ハレー協会会員となった経緯 36
- (ハ) 恩師関根源三郎先生 37
- (ニ) 一九一〇年四月ハレー彗星を見た 39
- (ホ) エドマンド・ハレーの略伝 43
- (ヘ) ノルマン征服(コンクェスト) 46
- (ト) ヘンリ二世とトマス・ア・ベケット 49
- 五、イギリス文学とハレー彗星 57
- (イ) 十字軍とリチャード一世 69

(ロ) 百年戦争とジャン・ダーク 71

(ハ) 薔薇戦争 (二四五五—一四八五) 75

六、講演 78

(イ) ハレー彗星を見た話 78

(昭和六十年三月一日、神奈川県立希望丘高校の卒業式において)

(ロ) シドニー紀行 83

(昭和六十一年四月二十三日煙洲会において)

七、随筆 91

(イ) ハレー彗星をもう一度 91

(「桜蔭会報」五五号へ寄稿)

(ロ) Eureka!! ハレー彗星にシドニーで再会 96

(「弘陵造船航空会会報」第十二号へ寄稿)

竹内先生と私

煙洲会と竹内先生

「芯」

電化大正十三年 菅 要助 101

横浜国立大学長 横山 亨 103

英文学の授業

建築昭七年 田辺 謙輔 106

人間教育を受けた私

造船昭七年 石井市次郎 108

竹内先生と私

造船昭七年 石川 久能 113

私にとつての竹内先生

造船昭七年 山田 実 123

竹内先生と青い表紙の本

建築昭八年 林 久満 126

竹内先生と私

造船昭八年 吉澤 幸雄 133

竹内先生の思い出

造船昭八年 齊木 雅夫 136

竹内秀雄先生と私

機械昭十年 荒井 文治 141

W

機械昭十年 犬塚 勝 146

竹内先生の授業の思い出

応化昭十年 笹沼宗一郎 147

先生と劣等生

応化昭十三年 石川 志郎 150

竹内先生と私

電化昭十三年 佐藤 主計 155

大岡町一八五二番界限

——先生への詫び状——
応化昭十四年 丸井 大陸 158

思い出の断片

応化昭十六年／十二月 服部 誠 160

お世話になった竹内先生

電化昭十六年／十二月 丸岡 勝美 164

竹内先生と私

機械昭十七年／九月 伊藤 良彦 167

私と外国語

野球の話

竹内先生と勸横浜工業会

竹内先生と私

先生と野球

竹内先生と煙洲会

機械昭十八年／九月 中村 稚晴 170

機械昭十九年／九月 中山 一郎 176

応化昭十九年／九月 佐藤 菊正 178

電化昭十九年／九月 山本 武 180

電化昭三十四年 日月 博紀 183

電化昭十七年／九月 村松 四郎 184